

みどりの学習プロジェクト

「みどり」に関する種々の疑問について考え、それを少しでも解きあかしていくのが、「学習緑」です。街や野山を歩いて目に映る自然は、人間がわからないことばかりです。みどりの減少が進んでいる豊中市内でもまだまだ、自然が多く残っています。数十億年の歴史を持つ自然界と、たかが200万年ほどの歴史しかない人間との関わりについて、「みどり」を通じて考えてみましょう。たとえば、「モンシロチョウ」は植物にとって本当に害虫なのでしょうか。この地球に生を受けて生活している以上、自然界にとってプラス面があるのではないのでしょうか。

種々の疑問を提案して下さい。皆さんと一緒にご考えましょう。

地域緑 Book プロジェクト

本プロジェクトでは、みどりの活動をしている団体にお邪魔して活動を体験し、地域緑 Book を作成しています。11月8日には、豊島北ビオトープさんの活動地にお邪魔しました。大阪空港周辺の騒音や排気ガスの影響を緩和するために整備された「ふれあい緑地」の一部である5街区（通称：服部ビオパーク）で花壇や草地の管理等をしておられます。今回は花壇活動の日に参加させていただき、花苗の植え付け作業を行いました。現在は、花壇計画3ヵ年戦略を構想中だそうです！

うちの団体の活動取材してほしいなど、ご要望をお待ちしております。



豊中みどりだよりは、みんなで、どんどん、りよっか（緑化）しよう！という意味を込めて、豊中市でみどり活動を進められている方に向けて発信するニュースです。



Toyonaka Green Action

豊中みどりだより第6号

特集 みどりのフォーラム

豊中みどりの交流会 2008



豊中みどりの交流会

-こんな活動やっています-

花苗プロジェクト

今年度は春、秋の2回にわたって育苗活動を実施し、育てた花苗は、メンバーを通じて各地域への配布活動を行い、メンバーが管理している公園等の場所へ花壇のデザインも考慮に入れて植え付けをしました。また、市内の2箇所（ふれあい緑地芝生広場2飛び地、西町公園）において、落ち葉を利用した腐葉土作りへの取り組みも開始いたしました。本プロジェクトでは、こうした活動を通じて地域間の交流も深めていきたいと思っています。「花いっぱいまちづくり」をめざしておられる皆様、是非ご参加ください。

ゴーヤ・プロジェクト

「みどりのカーテンづくり運動」
2008年は市内16小学校と3つの保育園、幼稚園に取り組んでいただきました。6校の小学校では環境学習の一環として取り組み85名～100名が参加。子どもたちは夏休み中も水やりに参加し、育ったゴーヤを料理したり、お茶を作ったりとみんなで楽しんでいただいたようです。
今年も地球温暖化防止の観点から「みどりのカーテンづくり」運動に多くのおみなさまのご参加をお待ちしています。



かたつむりのひとりごと



棚田の様子です。都心でこのようなことができる「新・里山」であるのは、良いことだと思います。

新梅田シティ「新・里山」見学に行きました！
新梅田シティの北側部分約8千平米に広がる緑地に、雑木林や竹林、稲田、野菜畑から茶畑まで作ってあり、大阪梅田の都心で鳥、トンボ、蝶、昆虫などが集まる「新・里山」です。手入れはガーデナーの方が行っています。ここでは、野鳥や昆虫、蝶のために、できるだけ無農薬で自然に負担の少ない有機植栽管理を実践、刈り取った下草も堆肥として役立てています。自然を大切に人と人の輪を大切に、かつて日本の集落の周りにあったような里山です。

豊中みどりの交流会（全体会のご案内）
次回は、下記日程で開催します。
ふるってご参加ください
■日時：2009年2月15日（日）10:00～12:00
■場所：花とみどりの相談所
■内容：☆話題提供 里山ハイキング/環境展
☆各プロジェクト活動について
☆情報交換会

編集後記
豊中みどりの交流会2008「みどりのフォーラム」は盛況裏に終わり、私たちの活動も少しずつ成長し、4月からの新年度に向けた準備も進んでいます。私たちの活動をひろげ、そだてるために、たくさんの人に参画いただき、花を咲かせ、実らせたいと思っています。活動に携わっておられる方には、高齢の方がたくさんおられます。お彼岸までは寒い日が続きますので、健康には充分留意され、また交通事故にも気を付けて、楽しく活動が続けていただきたいと思います。

（運営委員 吉田）

豊中みどりの交流会 2008 を開催しました
■「そだてよう『みどり』の和」をテーマに10月26日、すてっぷ(エトレ豊中5F)で開催しました。おかげさまで、150名の入場者があり、盛況のうちに終えることができました。

▼講演：「どうして植物をそだてるのですか？」：豊原憲子さん(大阪府環境農林水産総合研究所主任研究員)
▼事例発表：豊中みどりの交流会、桜井谷小学校、パナソニック(株)
▼パネル展示：豊中緑化リーダー会、竹炭塾、NPO法人豊島北ビオトープクラブ、親和自治会、上野連合花壇同好会、サングリン管理組合、千里竹の会、島熊山の雑木林を守る会、島熊山緑地協議会、パナソニック(株)、積水ハウス(株)、市内10小学校、ひかり保育所、ゆたか保育所、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21、豊中人権まちづくりセンター、大阪府みどり公社、大阪府、豊中みどりの交流会、豊中市（順不同）
▼そのほか：写真アート展、花苗の植え付け体験、竹細工体験、花とみどりの相談コーナー

豊原憲子さん

特集：豊中みどりの交流会2008

基調講演概要「どうして植物をそだてるのですか？」

～目的意識の共有と無理をしないためのしくみづくり～

◎どうして植物をそだてるのですか？

皆さん、植物を育てることに本当に頑張っておられると思います。では、なぜそれをされているのか？ただ植物を育てよう、それだけを伝えていくとなかなか意味が分からなくなります。子どもたちに、できるだけこの部分を伝えていくようなあり方が必要なのかなと考えています。

目的がちゃんとあって、そこを皆で使おう！というみどりはいいですね。大切なことは、計画性がある、きちっと皆さんが共通の認識を持ってやっているかどうか、ということだと思います。

◎植物の役割

植物を育てることで人間の社会はすごく進歩してきました。植物があるから動物はエネルギーを取り込んで使える。地球での長い命の営みの中で、動物はそのエネルギーの源を植物に頼って生きてきました。人は植物を育てることで人間になりました。何億年もかかってとても緻密に作られた地球環境は、どれだけ科学が進歩しても、環境を操作することは簡単ではありません。長い目で見ると、人間のやっていることが地球にどう影響するのか、誰も本当のところはわからないのが現実です。ただ、私たちはそういう意味で、植物を育てようということに対して、本当に安心できる、心が落ち着く、そのようなことで、皆が「みどりを育てよう」という中の根源にあるのかも知れないと私は思っています。

◎都市の中のみどり

都市の中で植物を育てていくというのには、いろんな意味があります。タイトルにもあります「目的意識の共有」。なぜ育てるのかを皆でちゃんと意識を持って育ててない限り、今のこの都市の中ではなかなか分かりづらい。「そんなもの要らん」と言ってしまうたら、それで終わりなんです。そのためにちゃんとまず理由を分かって、それで目的を位置づけてそれを使って行きましょう、ということです。

◎子どもたちの教育



私は、植物が無い中で子どもが育っていくというのは、子どもたちが、自分たちがなぜ生きていけるのかとか、なぜ食物を食べられるのかとか、そのようなことが理解できない（イメージできない）

中で生活している、そういうことと同じような気がします。植物があること、育てることが理解できれば、色んなことがもっと理解できるようになるのではないかと考えています。子どもたちが、自分で育てることの意味って、本当に大きいんじゃないかなと思っています。豊中市ではボランティアの皆さんが学校などと連携して子どもとの取り組みをすすめておられるということで、私たちも一緒にやっていきたいと考えています。

◎そだてよう“みどり”の和

ジャン・ジオノさんの「木を植えた男」という本ですが、すごく感動して、こんなことが人間にできるんやーというようなことを思って、そこからどちらかというともどりの仕事が多くなったと思います。「秘密の花園」は病気の子供が花園に入って回復していく、というお話ですけれども、子どもってどんな状態でも成長し続けていて、常に何か知りたい、学びたいという欲求があるんです。そういう子どもたちが病院の中において、病気という状態であっても、少しでも欲求が満たされ、子どもらしくあるためにどうしたらいいだろう、そんなことを考えながら、今は病院と一緒に子どものためのプログラムを作っています。今年のフォーラムのテーマは「そだてよう“みどり”の和」。みどりのことを皆に知ってもらいたい、知っている人が増えるといいなあ。そこからみどりを好きになってもらって、みどりを囲んで楽しいことが始まるといいなあ、というのが私の思いです。

●豊原 憲子 さん(大阪府環境農林水産総合研究所主任研究員)

昭和41年、大阪府生まれ。平成2年、大阪府立大学（花弁学）卒。大阪鶴見「花の万博」職員を経て、府農林技術センター（現・府環境農林水産総合研究所）入庁。平成11年から農とみどりの多面的機能活用をテーマに、高齢者や障がい者の農業・園芸作業に関する研究に取り組んでいる。専門は、花卉・緑化植物の栽培・利用に関する研究で、屋上・壁面緑化について民間企業との共同研究・製品開発にも従事している。
◆主な著書：共著書『福祉のための農園芸活動』農山漁村文化協会（2007.3）



桜井谷小学校

桜井谷小学校の今年度の4年生は、「地球守り隊」として環境問題について取り組んでいます。5月26日から「豊中みどりの交流会」の方々の協力の下、「みどりのカーテン作り」が始まりました。子どもたちは、どんな成長するゴーヤに興味を持ち、2学期には「ゴーヤ」「サンゴ」「沖繩の歴史」について調べ学習をし、学習発表会ではその3つのテーマの劇をしました。これらの取り組みを「みどりのフォーラム」で発表させてもらうことで、子どもたちは環境問題に強く関心を持つようになりました。ありがとうございました。

桜井谷小学校 4年生担当 武野光彦



パナソニック株「さくら広場」



花苗植付け体験コーナー



竹細工体験コーナー



パネル展示の様子

蛸池小学校

5月14日（水）総合的な学習の時間を使って、豊中みどりの交流会にいただいたゴーヤの苗を学年で植えました。夏には「ゴーヤが3階までのびてるわ。」「生き物係が水やりしてくれたからや。」と大喜びな子どもたちでした。収穫の時には、ゴーヤチップにして食べたり、おみやげに持って帰ったりしました。2学期に入って、オレンジ色のゴーヤを採って、半分に割ってみると「わあー、つぶつぶや。」「赤くなってる」「舐めてみると「甘いわ。」と嬉しそうな表情を見せてくれました。「ゴーヤのカーテンの内側と外側では温度が2℃も違うなんてびっくりした。」「来年も種をまいて、もっとずいずいゴーヤのカーテンができるといいな。」などつぶやいていました。

蛸池小学校 3年生担当 下口英子

